

## 成果の説明書

(氏名) 小熊 仁	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○ 研究活動	
・ 科研費（基盤研究 C：個人）に関する研究 前年度実施した NPO 法人の交通空白地有償旅客運送の持続可能性とその要因にかかる分析について下記の通り成果の報告を行った。	
・ 小熊 仁「交通空白地有償運送と NPO の持続可能性に関する分析」『地域政策研究』,高崎経済大学地域政策学会,第 23 巻第 1 号,2020 年 8 月,1-14 ページ。 また、前年度行った交通空白地有償旅客運送を行う NPO 法人 30 団体を対象とした効率性評価について、この分析結果を下記の学会で報告した。	
・ 小熊 仁「NPO 法人による交通空白地有償運送の効率性評価」,非営利法人研究学会第 24 回全国大会,2020 年 9 月 26 日（オンラインによる開催）。	
以上に加え、高崎市倉渕町の住民を対象にボランティアに対する支払い労働意思量とソーシャルキャピタルとの関係の有無について分析を行うため、高崎市長寿福祉課および高崎市社会協議会に対しヒアリング調査を行い、アンケートの実施に向けたサンプルの収集を行った。なお、アンケートは 2021 年 6～7 月にかけて実施する予定で、対象者は倉渕町の 65 歳以上の男女 1721 名である。	
・ 科研費（基盤研究 C：分担）に関する研究 今年度から新たに JSPS 科学研究費「離島交通に関する非市場的価値の評価と住民の意識構造に関する研究（基盤 C：代表者西藤真一）」の採択を受けたことをふまえ、前年度に実施した琉球大学島嶼地域科学研究所公募型共同研究「離島航空輸送の経済価値の計測とその価値構成に関する研究」の研究成果について下記の通り報告を行った。	
・ 小熊 仁・西藤真一・福田晴仁「沖縄県内離島航空輸送に対する経済価値の評価に関する研究：宮古～多良間線の事例」,国際公共経済学会第 35 回研究大会,2020 年 12 月 12 日（オンラインによる開催）。	
なお、今年度は与那国島を分析対象とし、離島航空をめぐる経済的価値の計測に向けたアンケートを行う予定であったが、Covid-19 感染拡大のため翌年度に持ち越しとし、代わりに郵送アンケートによるプレ調査を伊平屋島・粟国島とともに実施した。	
・ その他の研究	
① 航空政策研究会「航空における利用者負担のあり方について」 WG の研究として、民営化空港の効率性を評価するために、2017～2019 年度の 89 空港を対象に、コンセッション前後の効率性変化や複数空港一括運営を仮定した場合の効率性の推移について分析した。	
② 「道の駅の運営をめぐる全国アンケート調査」 全国の 1047 件の道の駅を対象に、経営状況や施設整備状況に関するアンケートを行い、このうち 380 件の道の駅からサンプルを得ることができた。これらの成果は翌年度、報告書等にまとめ整理し、その結果を学会等で報告する予定である。	

<p>○ 教育活動・社会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育活動 <p>本年度は、「交通政策論」(前期)、「観光交通論」(後期)、「基礎演習」(後期)、「演習Ⅰ」(通年)、「演習Ⅱ」(通年)を担当した。Covid-19 感染拡大のため、講義はいずれもオンラインで実施し(演習は後期から対面実施)、基礎演習では「演習Ⅰ」への準備として、ゼミに決定した 2 年生を対象に交通に関わる基本文献の輪読と発表を行った。「演習Ⅰ」では「交通企業の経営と効率性評価に関する研究」をテーマとし、グループ研究をすすめ学内懸賞論文への応募を行った(優秀論文賞受賞)。「演習Ⅱ」では、年間を通し卒論作成指導を行った(13 名全員卒論提出)。他方、学内業務としては、入試運営委員会の委員として、入学試験関連業務に携わった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会活動 <p>下記の委員会で活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国土交通省北陸地方整備局姫川水系流域委員会 委員</li> <li>② 国土交通省北陸地方整備局関川水系流域委員会 委員</li> <li>③ 国土交通省北陸地方整備局梯川水系流域委員会 委員</li> </ol> </li> </ul> </li> </ul>
<p>2 その他の事項</p> <p>該当なし</p>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>今年度は JSPS 科学研究費補助金「ボランティア交通従事者の参加意識・心理とソーシャル・キャピタルの関係に関する研究」基盤研究 C 2019～2021 年度 4030 千円の最終年度にあたるため、アンケートの速やかな実施と取りまとめに力を注ぐ。ただし、Covid-19 感染拡大のため一部調査の実施に見通しが立っていないため、翌年度への延長も視野に入れながら検討を行っていく。同様に JSPS 科学研究費補助金「離島交通に関する非市場的価値の評価と住民の意識構造に関する研究(基盤研究 C)」の調査研究や「道の駅の運営をめぐる全国アンケート調査」の報告にも取り組み早期の成果公表に向けて研究に取り掛かりたい。</p>